

第五十二回全国武徳祭・総裁追悼大会

団体最優秀賞

最優秀賞を受賞して

日本古武道直心会 会長 石本 一平

平成二十六年四月二十九日に総裁東伏見追悼第五十二回全国武徳祭が開催されました。参加多数の団体の中で第一回最優秀賞を受賞することができ、感謝するとともに皆様に御礼を申し上げます。

東伏見慈治前総裁は、平成二十六年一月一日に遷化され、今年の全国武徳祭は、追悼の大会でもありました。生前の元気な御姿を思い浮かべつつ、謹んでそれぞれの武技をもって各団体とも追悼されたことと思えます。

古来より日本では、「剣禅一致」や「茶禅一致」など、芸道と禅の教えが融合し、それが一つの文化となって現在に受け継がれています。

禅宗では、祖師と言えば達磨大師ですが、達磨大師は、南天竺香至国の第三王子として生まれ、父親の死後、修道出家し、中国に仏縁ありと海路三年にして現在の広州に着き、老齢の身をもって中国に仏の種を植えて、仏法を広められました。

中国から日本に伝来し、日本では、曹洞宗・臨済宗・黄檗宗などの宗派が現在に至っております。仏法は、三千年来、法を守るために、弟子の育成と後継者の選択に生命をかけてきました。また弟子や後継者、いわば児孫の脚下を借りてその法を守ってきました。

それと同様に、一般社団法人大日本武徳会の会員一同は、東伏見慈治前総裁の理念である「襲古還新しゅうこかんしん」を座右の銘として、東伏見慈徳の下で日本古来の武道をつうじて今後の発展に努力していかねばならないと思えます。

桑原代表理事から「第一回最優秀賞の受賞は、大変な重責がある」との御言葉をいただきました。「命には終わりあり。芸道には果てあるべからず」という言葉があるとおり、直心会は、技のみに偏らず、心身ともに一生をかけて修行していくことを念頭に人材の育成を目指しております。

第一回の最優秀賞受賞団体として、今後も東伏見慈晃総裁の下、一般社団法人大日本武徳会の発展に微力ながら寄与してゆきたいと考えております。